

脱炭素経営をワンストップでサポート

D-Lineup × オアスゼロ

Scope3 まで対応

サプライチェーン全体のCO2排出量見える化から 低・脱炭素ソリューションによるCO2排出量削減へ

Daigas エナジー 〇 アスエネ

導入事例 — アスゼロ —





プライム市場 上場子会社 **小売業**

(連結従業員数:約24,000名)



- ●サステナビリティの基礎から分からない。
- ●6つの重要課題の1つの気候変動への対応の推進。



O アスゼロでの 解決

- ●気候変動への取り組みの目標・KPIの策定。
- ●気候変動に関する外部環境の勉強会実施。
- ●アスゼロ CO₂排出量SaaS&SXコンサル導入。

脱炭素経営に 向けた具体的な 取り組みを開始 できた



プライム市場 上場会社

情報•通信業

(従業員数:約500名)



- ●コーポレートガバナンス・コード要請に対応したいが対応方法が分からない。
- ●CDP質問書 約200問に回答したいがノウハウがない。
- ●将来的に有効な算定・開示システムがほしい。



アスゼロでの解決

- ●CDP回答支援コンサルの提供。
- ●CDP回答方法の勉強会・説明。
- ●CDP回答ドラフトのレビュー・添削。
- ●CDP回答ノウハウを基に改善案の提案・実行。
- ●アスゼロ CO₂排出量SaaS&SXコンサル導入、TCFDコンサル 導入予定。

CDPへの 回答がスムーズに できた

導入事例 — D-Lineup —

D-Solar 🍥



プライム市場 上場会社 **六甲バター株式会社**

太陽光パネル:984kW



- ●新工場のエネルギー使用量が、想定より上振れしていたため、省エネ、CO₂排出量削減の取り組みが必要だった。
- 新工場建設直後のため、省エネ設備への追加投資をするか悩んでいた。



D-Solarでの 解決

- ●イニシャルレスのエネルギーサービスを導入することで、初期投資の 負担なく省エネ、CO2排出量削減を実現できた。
- ●将来の再エネ賦課金、電力単価の上昇リスクを低減できる。

将来的な 電力単価上昇 リスク低減にも 繋がった

D-Airing



総合病院 医療法人社団博栄会 ホ羽中央総合病院・東京シニアケアセンター赤羽

空調:3,186kW



- ●災害に強い大規模な複合医療施設となる病院新築移転を計画していた中でイニシャルコストを削減し、経営資源の有効活用を図りたい。
- ●病院規模拡大により設備維持管理業務が増えることが予想され、病院では生命線となる空調の 24時間365日監視をアウトソーシングしたい。



- ●イニシャルレスで、病院移転に関する初期費用を当初の予算内に おさめることができた。
- ●空調の24時間365日の遠隔監視など、信頼できる設備維持管理 体制で維持管理の手間軽減に繋がった。

設備維持管理の 手間を軽減

全ての企業が意識すべきCO2排出量削減の最新動向

気候変動に関する国際的な枠組み「パリ協定」の発効、2050年までに温室効果ガスの排出量を全体としてゼロにする「カーボ ンニュートラル宣言」など、脱炭素社会の実現に向けた動きが加速しています。

避けては通れない「CO2排出量見える化」



さまざまな観点から避けては通れないCO2排出量の見える化

SBTやTCFDなどの国際イニシアチブの影響力の高まりを背景に、企業は様々なステークホルダーに対して、CO₂排出量に関する情報開示が必要不可欠となりました。

TCFDに沿った情報開示が 実質義務化

東証市場再編に伴うコーポレートガバナンス・コード改訂により、プライム市場の上場企業は、2022年4月から、有価証券報告書におけるTCFDの提言に基づく気候変動リスクの情報開示が実質的に義務付けられた。

取引先からの 要請

サプライチェーンのトップ企業は、サプライヤーに対してCO₂排出量削減を要請。



インセンティブ

CO2排出量の見える化や削減に積極的に取り組むことで、各省庁・機関の補助金を活用できる可能性がある。

補助金などの

差別化・ ブランディング

消費者の環境意識が高まり、企業の社会・環境問題への積極的な取り組みが他社との差別化やブランディング強化、人材採用強化につながる。

消費者•従業員

国際イニシアチブの 影響力増加

TCFD、SBT、CDP、RE100などの国際イニシアチブの影響力による開示圧力が増加している。

CO₂排出量見える化の課題

<各過程でみられる課題>

1 見える化

- ●算定方法・領域がわからない
- ●データの収集や算出に時間 がかかる(サプライチェーン 排出量の把握が困難)

2 削減

- ●最適なCO₂削減手法や費用 対効果がわからない
- ●どんな削減目標やシナリオを作ればよいかわからない

3 オフセット

●オフセットするクレジットの 種類が多く、違いや対応イニ シアチブがわからない

自 社

4 報告

●CDP・省エネ法などイニシ アチブ毎に報告フォーマット が異なり、作成に時間がか かる

サプライチェーン排出量とは

事業者自らの直接排出【Scope1】 および間接排出【Scope2】だけでなく、サプライチェーンの上流・下流となる取引先の間接排出 【Scope3】(原材料・製造・物流・販売・廃棄等に伴う排出)も含めた「サプライチェーン排出量」が注目されています。

上流 Scope3

①原材料



*その他:②資本財、③Scope1,2に含まれない 燃料及びエネルギー関連活動 ⑤廃棄物、⑥出張、⑧リース資産



Scope2



下流 Scope3



①製品の廃棄

Scope1:事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス) Scope2:他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出Scope3:Scope1、Scope2以外の間接排出(事業者の活動に関連する他社の排出)

出典:「サプライチェーン排出量算定をはじめる方へ」(環境省)(https://www.env.go.jp/earth/ondanka/supply_chain/gvc/supply_chain.html)をもとに当社が作成

特に、【Scope3】の見える化は、膨大なデータ収集と煩雑な仕分け作業などの多大な労力がかかり、知識やノウハウが必要となります。

脱炭素経営をワンストップでサポート

D-Lineup × オ7スゼロ

エネルギー × テクノロジー の相乗効果

アスエネは、Scope1~3のサプライチェーン全体における CO₂排出量見える化・削減・報告を行うクラウドサービス「ア スゼロ」、およびSX^{※1}コンサルティングを提供。Daigasエナ ジーは、エネルギー会社の強みを活かした低・脱炭素ソリュ ーションを提供。

これらにより、企業のCO₂排出量見える化から低・脱炭素ソリューションによるCO₂排出量削減までをワンストップでサポートします。

※1. SX(Sustainability Transformation):企業が「稼ぐ力」を維持するために、持続可能性を重視した経営へ転換を図ること

<連携イメージ>



オアスゼロ



CO₂見える化・削減クラウドサービス SXコンサルティング

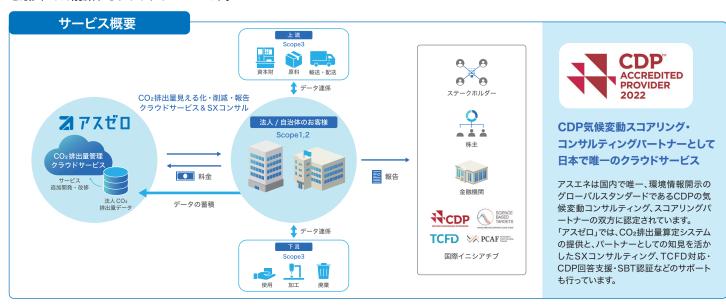
> CO₂削減 ソリューション提案

お客さ

D-Lineup

CO2排出量見える化・削減・報告クラウドサービス「アスゼロ」

「アスゼロ」は、CO₂排出量見える化から削減、カーボンオフセット対応、CDP・TCFDなどのイニシアチブ報告支援まで脱炭素経営の業務工数を最大70%削減するクラウドサービスです。



「アスゼロ」が選ばれる理由

AIを活用した画像アップロードなどの基本機能はもちろんのこと、カーボンオフセット(各種クレジット・環境証書)対応、シナリオ分析や計画策定・各種報告など、脱炭素経営に役立つさまざまな機能が備わっています。



AI-OCRスキャンで 自動で見える化



- Scope1-3のデータ回収・入力・算出をAI+ 人力で自動化
- ●お客さまの算出工数を削減



国際認証システムで 正確性向上・効率化



ISO14063-4・ISMSなどの国際認証取付最新機能搭載のシンプルで使いやすいシステムで正確性向上・効率化



CO2削減も まとめておまかせ



SaaS+SXコンサルなど、脱炭素のワンストップ・ソリューションを提供、最適な CO_2 削減を実行

脱炭素ソリューション *D-Lineup

3つのD Decarbonization 脱炭素化 Decentralization 分散化 Digitalization デジタル化 を軸とした

低・脱炭素ソリューションです。エネルギー会社の強みを活かし、お客さまの様々なニーズにお応えします。

■ D-Lineupの主要7サービス

太陽光発電サービス

D-Solar @

バイオマスの オンサイト有効利用サービス

D-Bio 🕖

新設非FIT電源を中心とした 再生可能エネルギー電気料金メニュー

D-Green

快適な空調・換気環境の 提供サービス

D-Airing 😂

節電や自家発活用で報酬が得られる デマンドレスポンスサービス

D-Response

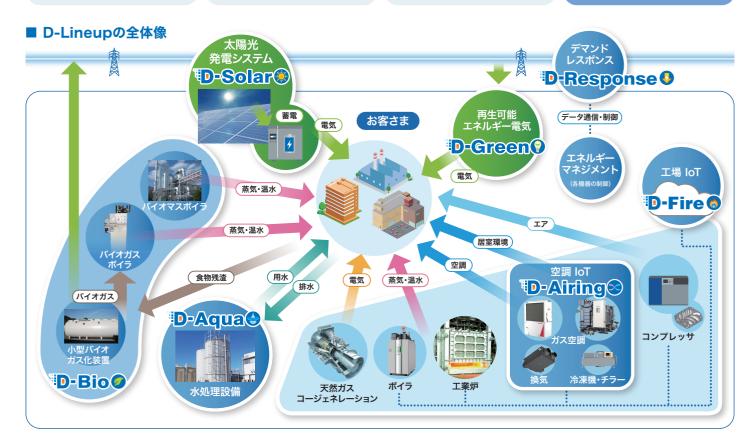
工場向けloTサービス

D-Fire 🌎

水処理 ソリューションサービス

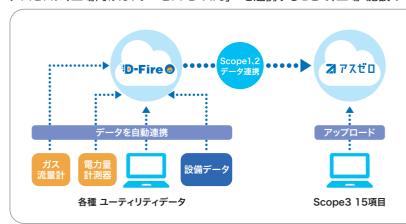
D-Aqua

今後も順次 拡大予定



【設備の一次データ連携について(D-Fireの活用)】

アスゼロに、工場向けIoTサービス「D-Fire」^{※1}を連携することで、工場・施設の一次データを活用したCO₂排出量見える化が可能です。



<お客さまの様々なニーズにお応えします>

アスゼロへのデータ入力作業の省力化

データを連携することで、入力の手間が不要

2) 製造ライン/設備毎のCO2排出量を把握したい

各製造ライン/設備毎にエネルギー量を計測・把握できる

3)製品別カーボンフットプリント(CFP)※2を算定したい

各製造ライン/設備の稼働実態を踏まえ、 より実態に即したCFPの算定が可能

- ※1 D-Fireとは、さまざまなデータと連携し、お客さまの「省エネ・省人化」「品質均一化」「操業安定」などを実現するIoTサービスです。
- ※2 CFP(Carbon Footprint of Products)とは、商品やサービスの原材料調達から廃棄・リサイクルに至るまでのライフサイクル全体を通して排出される温室効果ガスの排出量を CO2に換算して、商品やサービスに分かりやすく表示する仕組みです。

導入までの流れ

CO2排出量算定から具体的なCO2削減策の実行に至るまで、ワンストップでサポートします。

01

ご相談

脱炭素に初めて取り組む方で も、CO2排出量算定・削減に関 する質問をお気軽にご相談くだ さい。



02

勉強会

CO2排出量算定の基礎や、ケー ススタディを学ぶ。

担当コンサルタントが不安な点 などを解消します。



03

初期設定

施設情報やユーザー登録、セ キュリティ設定、算定対象範囲 など利用に必要な設定をします。



04 CO2排出量 見える化

請求書データなどをアップロー ドすることで、システムが自動で CO2排出量を算定します。





計画達成



脱炭素 ソリューション導入

導入いただいた後もCO2見える 化から削減に至る工程の維持管 理を含めてサポートします。



06 脱炭素 ソリューション検討

お客さまの計画に沿って具体的 な脱炭素ソリューションをご提



05 CO2排出量 削減計画の策定

設備状況やサプライチェーン、 事業の全体像から削減計画を 実態に合わせて策定します。



用語集

◆TCFD(Task Force on Climate-related Financial Disclosures)

企業の気候変動への取り組み、影響に関する情報を開示する枠組み。投資家が適切な投資判断をする上で必要 となる気候関連財務情報開示を企業に促すことを目的とする。

♦SBT(Science Based Targets)

企業の科学的な中長期の目標設定を促す枠組み。パリ協定が求める水準に整合した5年~15年先を目標年とし て企業が設定するGHG排出量削減目標。

◆CDP(Carbon Disclosure Project)

機関投資家が連携し、企業に対して気候変動への戦略やGHG排出量に関する公表を求めるプロジェクト。

◆RE100(Renewable Energy 100)

企業が事業活動に必要な電力の100%を再エネで賄うことを目指す枠組み。

◆アスゼロ画面イメージ



↓ 詳しくは



D-Lineup × **オ**アスゼロ



のアスエネ

〒105-6415 東京都港区虎ノ門1丁目17-1 虎ノ門ヒルズビジネスタワー 15階 CIC TOKYO TEL:050-3188-4866

https://earthene.com/corporate

アスエネ株式会社 会社概要

代表者:代表取締役CEO 西和田 浩平 資 本 金:25億2,681万円(資本剰余金含む)

認定/加盟: CDPパートナー、JEITA、RE100運営事務局JCLP 他

証: ISO27001(ISMS)、ISO14064-3

Daigas エナジー

〒541-0046 大阪市中央区平野町四丁目1番2号 TEL.06-6205-4641 FAX.06-6202-2502

会社概要

https://www.daigas-energy.co.jp/company/

各種商材・サービス

https://ene.osakagas.co.jp/product/index.html

お電話でのご相談は

Daigasエナジー エネルギーコンタクトセンター

0120-563-862

平日(月~金)9:00~17:30